

向島中学校 平成23年度 授業改善計画 (9科共通)

教 科 国語 担当 (緒方・西塔)

	1年	2年	3年
生徒の実態	全体的には意欲があり、積極的に取り組んでいる。ただ一部の生徒は集中力が持続しない。	全体的には意欲があり、授業も積極的に取り組んでいる。しかし、学習内容が積み重ならないため、既習事項の復習が必要である。	全体的に意欲があり、授業も積極的に取り組んでいる。活発な意見交流をすることもできる。個々の学習の定着が課題である。
後期の重点	・家庭学習の充実 ・班学習（教え合い）の充実	・家庭学習の充実 ・基礎的な読解力の向上 ・読書活動の奨励	・家庭学習の充実 ・言語事項の定着・活用 ・読書活動の推奨
担当学年	課題		改善策
第1学年	平均到達度は区の平均からみて全体的にやや下回っている。区の平均と最も差がある項目は言語事項であり、まずは基礎基本の定着が課題である。また、語彙力も低いと考えられるため、読書活動を奨励していく必要がある。		漢字小テストで間違った漢字は定期考査前に復習するなどの対策を行う。また、漢字コンテストでは達成感を持たせられる結果に繋がるよう反復練習を行う。さらに、読書紹介カードを活用し、読書量を増やすとともに、相手意識を持って文章を書く能力を身につけさせる。
第2学年	平均到達度は区の平均からみて全体的に下回っている。区の達成率と最も差がある項目は「読む力」であり、説明的文章・文学的文章ともに基礎的な事項を確認し、読解力を伸ばす必要がある。		文章を正確に読み取るために、内容や文章のポイントを明確に示し、ノートやワークシートで整理する。また、条件に合わせて答える力を身につけるために、単元の終わりに簡単な練習問題（確認問題）を実施する。
第3学年	平均到達度は区の平均からみて全体的にやや下回っている。区の平均と最も差がある項目は言語事項であり、上位層と下位層で定着率の差も著しいことが課題である。また、読書量の少なさが語彙力のなさにつながっている。		普段の漢字小テストに加えて、定期的に漢字や言語の復習テストを行い、言語事項の定着を図る。また、スモールステップを意識したワークシートを用い、基礎的な事項は上位層・下位層に関係なく理解できるようにする。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	表現することが好きな生徒が多く、どの学年も創作活動はよく取り組んでいる。一方で、語彙力の低さが目立つため、言語事項の充実を図ることが必要である。また、問題文の条件に合わせて回答することが不得意な傾向にある。		
家庭との連携による学習習慣の確立	漢字コンテストの際には家庭学習用のプリントを配布し、本番のテストに向けた学習を行う。また、単元学習後や定期考査前にワークを用いて学習を進めさせる。「写す」だけで終わらないよう、早めに範囲を知らせるとともに、学習方法を確認する。		
向島中ミニマムを活かした指導の工夫	常に既習事項を意識し、ねらいを明確にした指導計画を立てる。事前に生徒のつまずきを予想し、スモールステップで学習できるようなワークシートの作成に努める。		
成果と課題 (年度末に記入)			

数学 担当	屋良・松井・吉田
-------	----------

	第1学年	第2学年	第3学年
児童・生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習習慣が身につけていない。 授業の振り返りせず、定着されない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解力に大きな差があり、一斉授業では困難なことがある。 学習したことが定着されない生徒数が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣も少しずつつき、数学の興味関心がたかい生徒も多くいる。
後期の重点	<ul style="list-style-type: none"> 宿題プリントを出す。 授業の始めに前時の学習内容を確認し、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を習熟度別で行う。 コースに合わせた課題を繰り返し解かせることで、基礎学力を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別少人数により、個に応じた指導を行う。 応用問題にも取り組むことにより、定着を図る。
担当学年	課題		改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 平均到達度は基礎・応用とも区の平均よりやや下回っている。 達成率は数学的な表現・処理が区の平均よりも5%以上下回っている。 基礎計算の力が弱い。 		<ul style="list-style-type: none"> 授業の始めに復習小テストを行い、前時の学習を振りかえさせる。 テスト前の放課後や長期休業を利用して補習授業を行い、基礎計算力を定着させていく。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 区の平均からみて、到達度・達成率のすべての観点において下回っている。 特に、数学的な表現・処理の達成率が12%以上下回っている。 基礎計算力が定着されていない。 		<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の時間、基礎計算の練習問題に取り組ませる。 授業の中で基礎計算の小テストを行い定着させる。 放課後や長期休業を利用して補習授業を実施、苦手分野を克服させる。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 応用問題の達成度が低く数学的な見方や考え方が平均を下回っている。 図形に比べて、関数を苦手にする生徒が多い。 		<ul style="list-style-type: none"> 習熟度発展組では応用問題を数多く解いていく。 グラフの描き方を理解させるとともに、増減と係数の関係などを考えさせ、理解を深めさせ、また文章題の内容から、立式できる力をつけさせる。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<ul style="list-style-type: none"> テストの解答解説づくりから、各々の間違い、解き方のポイントを振り返らせながら理解を深める。 		
家庭との連携による学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 計算の宿題プリントを出し、翌日の朝学習の時間で答え合わせをさせる。 課題を出し、答え合わせをした後、裏に解き方の模範解答を印刷して返す。 		
向島中ミニマムを活かした指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいを示す。 既習事項（計算）を押さえながら指導にあたる。 		
成果と課題 (年度末に記入)			

向島中学校 平成23年度 授業改善計画 (9科共通)

教 科 英語 担当 (河野・高瀬)

	1年	2年	3年
生徒の実態	小学校での英語学習で英語を聞くことに慣れている。反面、書くことを苦手とし、リスニングとライティングのバランスが偏っている。授業に対しては積極的に取り組む。	全体的に非常に熱心に取り組む。ただ、一部が苦手意識を強く持ち、あきらめてしまっている生徒がいる。生徒間の関係も良く、積極的に教えあいを行う。	1年時から継続して、意欲を持って授業に取り組んでいる。その結果が、学力調査の結果にも反映されている。授業では、英語を聞いて、自分の考えを英語で表現することが自然と行える生徒が多い。
後期の重点	ライティングの負荷を増やし、簡単な文法や単語の反復練習を徹底して行う。	教えあいを活性化し、ファスト・ラーナー・スローラーナーがともに向上できる環境を強化する。同時に、苦手意識の強い生徒たちに個別対応を行なっていく。	実践的コミュニケーション能力を育成するアクティビティを行うとともに、長文読解能力を育成していく。
担当学年	課題		改善策
第1学年	オーラルのスキルと比較してライティングのスキルが低い。		<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習などでの単語練習を継続的に行う。 ・スペリングコンテストなどを活用し、家庭での単語学習を促進する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・区全体からみて平均到達度はすべての設問において下回っている。 ・会話表現、並べ替え英作文、動詞の語形変化に課題がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・会話スキットに多く触れさせるとともに、クラスルームイングリッシュを活用し会話練習を行う。 ・語順のトレーニングを行う。 ・フラッシュ型教材などにより語形変化の反復練習を行う。 ・家庭学習において不規則動詞活用変化を練習、および英文日記を行わせる。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・区全体からみて平均到達度はほぼすべての設問において上回っている。 ・到達度を見ると比較的リスニングのポイントが他の項目より低い傾向がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・高い基準で達成できているので今後もこの状態を維持していく。 ・入試レベルのリスニング問題に取り組むとともに、show & tellなどで生徒同士英語を聞き、理解する活動を行っていく。 ・ラジオやインターネットを活用した教材を紹介し、行わせる。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」のバランスを熟慮し、1年生に関しては書くことを強化、2、3年生に関しては4技能を統合した活動を行っていく。		
家庭との連携による学習習慣の確立	家庭学習を行うことを前提とした授業形態を作る。		
向島中ミニマムを活かした指導の工夫	各セクションにおいて習熟の必要な事項を明確に意識させる。それにより、書く生徒が最低限必要な知識・理解の習熟を認識し、できないところを重点的に学習できる環境をつくる。		
成果と課題 (年度末に記入)			

向島中学校 平成23年度 授業改善計画 (9科共通)

教 科 理科 担当 (大久保・三保)

	1年	2年	3年
生徒の実態	・科学的な体験が少ない。 ・観察・実験には、興味があるが、考察をする習慣が身につけていない。	・基礎的な内容が理解不足の生徒が多い。	・既習内容を整理して理解できていない。
後期の重点	・観察・実験の考察の方法を身につける。	・観察・実験の目的を明確にし、見いだすべく法則等が理解できたか確認する。	・3学年の内容と既習内容を結び付けながら授業を進める。
担当学年	課題		改善策
第1学年	・応用の達成率が低い。 ・生物とその環境の達成率が低い。		・基礎的内容から発展させて日常生活での活用例までを扱う。 ・実物に触れる機会を多くする。
第2学年	・達成率が区平均を下回っている観点が多い。 ・自然事象についての知識での達成率が特に低い。 ・学習した内容の定着度が低い。		・自分で考える時間や話し合い活動の時間を多く設定し、自分の考えをまとめられるようにする。 ・授業中に豆テストを行うこと、宿題で問題を解くことにより学習内容の定着を図るようにする。
第3学年	・応用の達成率が低い。 ・観察・実験の技能・表現の達成率が低い。 ・化学変化と原子・分子の達成率が低い。		・班編成を習熟度を活用して行い、班内での学び合いができるようにする。 ・観察・実験の基礎操作について確認する。 ・観察・実験の結果を比較しあい、考察する時間を多めにとり、まとめが確実にできるようにする。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	・観察・実験の基礎操作を教師の支援によらず行う。 ・日常生活と理科の学習を関連させるような課題に取り組む。 ・観察・実験の視点を明確にして自らの力で規則性を見いだせるようにする。		
家庭との連携による学習習慣の確立	・家庭学習課題で既習内容を扱う。 ・放課後の時間などを利用して、補習授業を実施して、家庭学習方法を身につける。		
向島中ミニマムを活かした指導の工夫	・観察・実験の視点を明確にして自らの力で規則性を見いだせるようにする。 ・学習内容と既習内容を結び付けながら授業を進める。		
成果と課題 (年度末に記入)			

		社会 担当	青木・齊藤
	1年	2年	3年
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・小学6年生に学習する歴史の内容が定着していない。 ・学習習慣が身につけていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区全体からみて平均到達度はすべての設問において下回っている。 ・履修したところが定着しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力のある生徒とそうでない生徒の差が大きい。 ・近現代史の平均到達度は高いが地租改正など一部において理解が低い
後期の重点	基礎的な知識を身につけるための学習習慣の確立。	基礎基本の徹底のため、スモールステップの授業展開をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・未習の部分や理解していない部分の補充 ・活動型の授業の展開
担当学年	課題		改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史では、日本の歴史の流れが理解できていない。 ・歴史用語の記述問題に無回答が多い。 ・資料からの読み取りと読み取り内容の記述ができない。無回答が多い。 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な思考・判断力を身につけさせるために、思考して記述する機会を必ず授業の中で1回以上盛り込む。 ・一授業単位ごとに復習できるワークシートを毎時間配布し宿題とする。 ・世界の地域構成の学習において調べ学習を取り入れ、調べる方法、調べた内容を伝える文章の構成と発表活動を行い自主的な学習を促進する。 ・既習内容を振り返る補習を行う。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・緯度・軽度と地球上の位置の関係に地理では課題がある。 ・歴史の流れが理解できていない。特に政治の流れがわかっていない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ミニテストを継続すると共に授業の工夫としてフラッシュ型教材を活用し、基礎の確認し定着させる。 ・デジタル教材を活用し歴史の流れや文化についての理解を視覚的に行う。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・地理3部のB～D層の通過率が低い。促成栽培、日本の工業地帯、気候について無解答が多い。 ・近現代史の平均到達度は高いが地租改正など一部において理解が低い 		<ul style="list-style-type: none"> ・ミニテストは継続していく。既習事項で理解の低い部分も問題にしていく。問題演習でフォローしていく。 ・夏季に基礎コース・応用コースに分け補充学習を実施した。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域学習の中に調べ学習を取り入れる。個人の作業を中心にし、それを元に全体に発表などの活動を取り入れ、共通理解をさせる。 ・試験前の補習をし、既習内容をフォローする。 ・公民の学習で活動型の学習を取り入れ興味を持たせ思考・判断力を育てていく。 		
家庭との連携による学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・3年で活動型の学習はA層を中心に組み立てていく。身近なことから授業を組み立てていくので家庭で考えることも宿題として指示する。 		
向島中ミニマムを活かした指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらい、概ね満足の規準の明示 		
成果と課題 (年度末に記入)			

		音楽 担当	阿部 裕子
	1年	2年	3年
生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱活動などで、表情豊かに進んで表現することに抵抗感がある。 鑑賞は、喜んで取り組む生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動は積極的に行う。パート練習などで協力することができる。発声の仕方をもっと工夫して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 表現活動を喜び、楽しんで行うことができる。自分たちで音楽のイメージを考えて表現しようとする。
後期の重点	<ul style="list-style-type: none"> 自分から進んで表現することに喜びを感じるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本を繰り返し、定着をはかる。その基礎を応用させる力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭・卒業式など、最後の行事に向けて、気持ちを込めて表現させる。
担当学年	課題		改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 表現することに喜びを感じられるようにする 幅広い音楽を鑑賞し、その良さを感じ取る 		<ul style="list-style-type: none"> 授業の雰囲気作り 興味・関心を高める授業研究や工夫
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着をはかり、その基礎を応用させる力を育む。 パートなどで協力し、進んで表現する活動をめざす。 		<ul style="list-style-type: none"> 発声練習のレパトリーを増やし、何のために行っているかのねらいを明確にする。 自分たちで音楽をより深く考えて表現できるような力を身につけさせる
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 音楽のイメージを伝えるための様々な工夫を考えながら表現させる。 音楽を身近に感じ、進んで生活に取り入れるための学習のまとめ 		<ul style="list-style-type: none"> 発声・強弱・アーティキュレーションなど、様々な工夫を考えさせ、その工夫を表現に生かすことで生まれる、豊かな表現を感じ取らせる。 様々なジャンルの音楽に親しみ、その良さを感じ取らせる。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<p>まず、表現することに喜びや楽しみを感じられるようにさせる。そして、鑑賞を通して感じたことを表現の工夫に生かすことができるようにさせたい。</p> <p>関心・意欲を高めることで、音楽に対する苦手意識や、自信のなさを解消する。基礎基本を徹底し、応用できる能力を高める。</p>		
家庭との連携による学習習慣の確立	<p>日常生活でも音楽に対して興味を持って、注意深く鑑賞できる姿勢を養う。</p>		
向島中ミニマムを活かした指導の工夫	<p>多くの人が共通に感じ取れる、曲にふさわしい表現を工夫するために、強弱やアーティキュレーションなどを考えさせ、感じ取らせたい。</p>		
成果と課題 (年度末に記入)			

美術 担当	奥井 伸
-------	------

児童・生徒 の実態	<ul style="list-style-type: none"> ● 本校の生徒は色々な経験に乏しいところがあり、一般的な基礎知識に欠ける部分がある。また情報に対しても自ら積極的に収集する能力に欠けている。 	
後期の重点	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記のことを鑑みた時に情報の取捨選択の能力の向上、それによる作品の質の向上を図る。 ● また、教えあう姿勢を作り、自主的な学習推進のために取り組ませる。 	
担当学年	課題	改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業規律の向上 ● 関心・意欲の向上 ● 基本的技能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人のレベルに応じた作品づくりの方法の定着 ● 色々な資料から発想力を高める ● 自ら工夫して技術の向上を図る
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業規律の向上 ● 関心・意欲の向上 ● 基本的技能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人のレベルに応じた作品づくりの方法の定着 ● 色々な資料から発想力を高める ● 自ら工夫して技術の向上を図る
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業規律の向上 ● 関心・意欲の向上 ● 基本的技能の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本人のレベルに応じた作品づくりの方法の定着 ● 色々な資料から発想力を高める ● 自ら工夫して技術の向上を図る
第〇学年		
第〇学年		
知識・技能と 思考力・判断 力・表現力等 のバランス	<ul style="list-style-type: none"> ● 各学年を通して技能向上に関わる単元の充実を図ることで、自らの技能について一定の自信を養うことを目標とする。 ● 一定の自信を持つと、次のチャレンジが生まれてくる。すなわちそれが表現力の向上につながると考える。 	
家庭との連携に よる学習習慣の 確立	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭での調べ学習の定着。 	
学校独自に設定 してください		
成果と課題 (年度末に記入)		

		保健体育 担当	伴・金子
	1年	2年	3年
生徒の実態	・運動自体は好きな生徒が多いが、基礎的な技能が身につけていない生徒が多い。	・運動自体は好きな生徒もいるが、単元によっては授業を避ける生徒も少なくない。	・明るく活発に授業に取り組んでいる。積極的に練習に励み、自らの技能を向上させようと努力する生徒が多い。
後期の重点	自ら興味・関心を持つことができるように積極的に行う。	課題解決学習の発展とお互いに教え合えるような雰囲気づくりを行う。	基本的技能の長所・短所を見極めることができるようにし、お互いに教え合えるようにする。
担当学年	課題		改善策
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に参加することができるように技能に興味・関心を持つ。 安全に留意して行う姿勢を身につける。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士がお互いに教え合い、注意し合えるように小集団学習を実施する。
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自ら課題を把握し、解決に取り組むようにする。 お互いに教え合える雰囲気をつくる。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士がお互いに教え合い、注意し合えるように小集団学習を実施する。
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> 基本的技能の長所・短所を見極め、さらに発展させることができるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士がお互いに教え合い、注意し合えるように小集団学習を実施する。
知識・技能と思考力・判断力・表現力等のバランス	<ul style="list-style-type: none"> 課題の発見や解決のための主体的な学習 自己の目標の設定や評価、実践力 運動への関心・意欲に対する態度 		
家庭との連携による学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を基に家庭との連携を図り、小集団学習を活用して個に応じて体力を高めることができる生徒を育成する。 		
向島中ミニマムを活かした指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士がお互いに教え合い、注意し合えるように小集団学習を実施する。 		
成果と課題 (年度末に記入)			

技術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隔週授業での授業の連続性の工夫 ・ 基礎、基本の定着 ・ 関心、意欲を高める授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容を精選して、各自が意欲的に取り組める授業の工夫をする。 ・ 生徒一人ひとりに対する、丁寧な指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的な学習ができるように教材等を精選・工夫し、学習意欲を向上させる。 ・ 生徒の進度に合ったきめ細かな個別指導を徹底する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育に関する知識が不十分 ・ 幼い子への対応が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 忘れ物をなくす指導をする。 ・ 保育体験を通して幼い子への知識理解を高める。 ・ 意欲的に取り組める授業の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児のおもちゃ製作やおやつ作りを通して学習に意欲を持たせる。